

國際條約ニ對スル義務觀念アルヤ疑ハシク東三省ニ於ケル我カ權益ノ重大ナルニ顧ミ暫ク妥協ヲ中止シテ形勢ヲ觀望スルノ得策ナルヲ勸告シタル次第ナルカ南方政府我カ國ニ對スル態度カ今尙改善サレサル今日愈易轍ヲ實行セラレタルニ付テハ我カ權益保護ニ關シ相當ノ覺悟ヲ有スルモノト思考セラルルカ去ル六月以來幾度カ實行ヲ明言セル滿鐵ノ吉會、長太兩鐵道工事契約實施ヲ荏苒今日迄延引シテ尙決セサルハ誠意ヲ缺ク爲ナルカ如シ若シ然ラストセハ該契約ハ實施ヲ即時ニ施行セラレタシトノ趣旨ヲ嚴重ニ申込ム積リナルニ付右御承知置キアリタシ

外務省

10.7

S 1.1.1.0 -20

吉會線問題解決方ノ件

鈴木總領事

吉會線問題ハ我カ滿洲發展、北鮮並ニ裏日本ノ開發上頗ル重要問題ニシテ是非解決ヲ要シ曩ニ北京ニ於テ滿鐵當局ト張作霖トノ間ニ大体ノ調印ヲ了シ之カ實行方ニ付其后引續キ滿鐵當局ヨリ奉天官憲ニ迫リ居ルモ容易ニ解決セス一面各地ニ反對運動起リ本件實行ヲ阻止セントスルニ對シ支那官憲ニ於テハ之ヲ取締ルカ如ク又タ暗ニ使喚スルカ如ク極テ曖昧ノ態度ヲ持シ何等誠意ナク此儘維持スルニ於テハ遂ニ立消トナラントスル形勢ニシテ此際何等カ解決ニ關スル研究ヲ必要トス

之カ解決方ニ關シ支那側ニ誠意ナキニ於テハ安奉線及天圖線ノ前例ニ依リ我ヨリ實行ニ着手スヘシトスル積極說アルモ本件ニ關スル今回ノ滿鐵交渉ハ受負契約ニシテ安奉線トハ大ニ其ノ性質ヲ異ニシ又タ天圖線ハ當時交通不便ナル僻陬地方ナリシ爲メ廣ク知レ

外務省

10.7

S 1.1.1.0 -20

問題タリシカ前記間島協約ニ依リ帝國政府ハ特ニ支那側ノ主張ヲ容レ圖滿江ヲ以テ國境トシ間島ヲ支那領タルコトニ承認スルト共ニ之カ對償トシテ支那側ノ履行スヘキ義務ヲ規定シ吉層線モ其一ニシテ條文左ノ如シ

「第六條、清國政府ハ將來吉長鐵道ヲ延吉南境ニ延長シ韓國會寧ニ於テ韓國鐵道ト連絡スヘク其ノ一切ノ辦法ハ吉長鐵道ト一律タルヘシ、開辦ノ時期ハ清國政府ニ於テ情形ヲ酌量シ日本政府ト商議ノ上之ヲ定ム」

トアリ右ノ規定ニ依リ爾來朝鮮側ニ於テハ連絡準備トシテ收支ヲ度外ニ置キ多大ノ經費ヲ要シ且ツ困難ノ工事タル會寧清津間即チ清會鐵道ヲ敷設シ又タ一億圓ノ巨費ヲ投シ最近會寧京城間即チ咸境鐵道ヲモ完成シ國境連絡ヲ待ツニ拘ラス支那側ニ於テハ今ニ之ヲ敷設セサルハ明ニ條約ニ依ル義務ヲ履行セサルモノトス

勿論開辦ノ時期ハ支那政府ニ於テ之ヲ酌量スヘキ旨規定シアルモ

外務省

10.7

S 1.1.1.0 -20

37

渡ラサリシト張作霖奉直戰失敗ノ爲メ對日關係上速ニ同意シタル爲メ別ニ中外ノ問題トナラサリシモ現今ノ對支竝ニ對國際情況ニテハ然カク簡單ニ解決シ得ヘキモノト思ハレス、左リトテ本件ヲ奉天ニ於ケル滿鐵當局ノ交渉ニ任セ隱忍之ヲ繼續スルモ支那側ニ於テ誠意ナキニ於テハ到底解決ノ見込ミ立タス結局遂ニ立消ヘトナルノ恐アリ

卑見ヲ以テスレハ從來吉層線ニ關スル支那側ニ對スル我カ交渉ハ其ノ根底ヲ誤リ居リシニアラスヤト思ハル即チ支那側ノ鼻息ヲ窺ヒ種々ノ運動ヲ試ミテ獲得スル利權ノ如ク取扱ヒ來リシ觀アリ抑モ吉層線問題ノ根本ハ明治四十二年九月四日北京ニ於テ伊集院公使梁敦彥間ニ調印ヲ了シタル間島協約第六條ノ規定ニ依ルモノニシテ之ヲ敷設スヘキハ支那側條約上ノ義務ニシテ我方ヨリハ其ノ履行ヲ請求スレハ足ル筋合ノモノナリ

元來間島ハ朝鮮支那孰レノ領土ナルヤ判明セス鮮支間多年ノ係争

外務省

10.7

S 1.1.1.0 -20

36

何ニ依リテハ南方國民政府へ交渉スルモ可ナルヘク又タ之ヲ國際
 間ノ問題タラシムルモ何等差支ナキモノト認メラル而メ張學良揚
 宇庭及張作相等モ互ニ責任ヲ迴避シ居ル關係上條約ノ規定ニ依リ
 日本側ヨリ交渉ヲ受クルハ其ノ立場上却テ都合宜シカルヘシト察
 セラル
 之ヲ要スルニ本件ハ從來ノ交渉理由ヲ變更シ間島協約ノ規定ニ依
 リ支那側條約不履行問題トシテ政府ヨリ交渉シ(滿鐵側モ從來ノ
 通り交渉ヲ繼續スヘキハ勿論トス)其ノ態度如何ニ依リテハ間島
 領土權問題ヲモ再發セシメ仍ホ解決セサルニ於テハ我カ保護ノ下
 ニ滿鐵ヲシテ實行ニ着手セシムル方針ヲ取ルノ外ナシ

10.7

S 1.1.1.0 -20

右協約ハ調印以來已ニ拾九年ノ久シキニ亘ルニ拘ラス今ニ之ヲ履
 行セサルハ其ノ怠慢到底許スヘカラサルモノニシテ殊ニ我カ交渉
 ニ對シ誠意ヲ缺クカ如キコトアラハ我方ニ於テハ間島問題ノ當時
 ニ遡リテ再ヒ間島領土權ヲ主張スルモ亦タ已ヲ得サル所トス
 以上ノ如ク吉會線問題ハ支那側條約不履行ノ不法行為ニ基因スル
 モノニシテ本件解決ハ之ガ糾彈ヨリ始メサルヘカラス然ルニ右ハ
 滿鐵ヨリナスヘキ筋合ノモノニアラス此際我カ政府ヨリ間島協約
 ノ規定ヲ根據トシテ奉天官憲ニ對シ強硬ニ交渉シ曩ニ北京ニ於テ
 調印シタル滿鐵受 契約ニ依リ速ニ敷設ヲ實行シ條約ニ依ル義務
 ヲ履行スヘキ旨申込ム様致シタシ
 仍ホ其ノ態度如何ニ依リテハ間島領土權問題ヲ再發スヘキ意嚮ヲ
 ホノメカスモ差支ナキモノト思ハル
 本件ハ條約上ニ於ケル支那側ノ履行スヘキ義務ナルノミナラス世
 界交通上竝ニ滿鮮開發上已ヲ得サル問題ニシテ奉天官惕ノ情況如

10.7

S 1.1.1.0 -20

外務省

實施セムトスル日本ノ權益ニ重大ナル影響ヲ來スヘキモノト認メラ
ルルニ拘ラス(續ク)

10.7

S 1.1.1.0 -20

外務省

第 號
在奉天林總領事ヨリ田中外務大臣宛
奉天
昭和 年一月一日前着
電信第七六六號ノ一
貴電第二七四號ニ關シ
今卅一日張學良ニ會見シ御訓令ノ趣旨ヲ篤ト申入レタル處學良ハ就
任當時ヨリノ行懸ヲ無視シタル譯ニハアラサルモ本年七月南北妥協
ニ關シ日本側ノ意嚮ヲ伺ヒタルコトカ日本政府側ヨリ發表セラレタ
ル結果支那國民ヨリ非難ヲ受ケ甚タシキハ非國民ト迄モ罵ラレタル
事實ニ鑑ミ今回ノ新國旗掲揚問題等ニハ事前何等ノ通告モ爲ササリ
シ次第ナレハ此ノ邊惡カラス諒解ヲ得タシト辨疏セリ依テ本官ハ事
狀ハ別トシ今回ノ新國旗掲揚ハ東三省ノ政治組織ニ大改變ヲ來ス前
提トシテ其ノ運用ノ如何等ハ日本ノ條約上將又協約ニ依リ實施又ハ

10.7

S 1.1.1.0 -20

外務省

テ我方ニ於テハ鐵道問題ノ解決如何ニ依リ學良ノ誠意ヲ見ル「バラ
 メートル」トナシ居ル事ヲ告ケ其ノ考慮ヲ促シ置キタリ
 北京、上海へ轉電セリ
 上海ヨリ南京へ轉電アリタシ

10.7

S 1.1.1.0 -20

43

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ田中外務大臣宛

奉天

昭和 年一月一日前着

電信第七六六號ノ二

事前何等ノ諒解ヲ得サリシハ日本政府ハ勿論本官トシテモ極メテ遣
 憾トスル處ニシテ學良之レ迄ノ言質カ虚偽ナリシカトモ疑ハサルヲ
 得ス果シテ誠意ナキモノトセハ帝國政府ハ今後彼ノ出方如何ニ依リ
 斷然タル措置ヲ執ルノ已ムヲ得サル場合アルヘキヲ明確ニ記憶セラ
 レタキ事ヲ告ケ尙今回ノ旗擧ケト共ニ日本ノ疑惑ヲ増シ居ルハ鐵道
 問題ナルカ學良ニ果シテ之ヲ實行スルノ意思アリヤト其ノ決心ヲ質
 シタルニ學良ハ之ヲ實施スルコトヲ望ムハ勿論ナレトモ國民ノ反對
 激シキ今日其ノ意思ニ反シ實行スルコトハ到底困難ナリト答ヘ此ノ
 點ニモ誠意ノ頗ル疑フヘキモノアリト認メラレタルニ付本官ハ重ネ

10.7

S 1.1.1.0 -20

42

白カラスト存シ其ノ旨不取敢森岡少佐へ申傳へ置キタルカ鐵道問題
 カ未タ平和的交渉中ニアル際陸軍次官邊ヨリ何カト直接出先軍部ニ
 訓令セラルル事ハ其ノ筋合ニモ之レ無カルヘク外交系統ヲ紊ル顯著
 ナル事例ニシテ斯ノ如キ事例カ支那側ヲシテ常ニ乘セシムル處トナ
 リタル弊害ニ付テハ御承知ノ通ナルニ付テハ陸軍側ニ對シ篤ト御申
 聞相成度夫レトモ右訓電ニ關シ委細本省ニテ御含ミノ上ノ事ナラハ
 其ノ旨折返シ御電報アリタシ

10.7 S 1.1.1.0 -20

第 號

在奉天林總領事ヨリ田中外務大臣宛

奉天 昭和四年一月四日後發
同 四年一月五日前着

電信第七號 (暗、極秘)

四日陸軍次官ヨリ當地特務機關ニ對シ「一月四日開催ノ由ナル聯合
 省議會ニ於テ鐵道問題否決セラルルカ又ハ南方ニ移サルルニ於テハ
 帝國政府トシテ機宜ノ措置ヲ執ルノ已ムヲ得サルニ至ル事アルヘキ
 旨林中佐ヲシテ個人ノ資格ニテ張作相ニ懇切ニ説明セシムヘク本件
 領事滿鐵トモ聯絡ヲ取ルヘシ云々」トノ意味合ノ電報アリタル趣ノ
 處御承知ノ通鐵道問題ハ目下尙滿鐵ニテ折角折衝中ニ有之本官ヨリ
 モ未タ支那側ニ對シ正式ニ本件ニ關スル帝國政府ノ意嚮ヲ傳ヘタル
 事之レ無キニ拘ラス顧問等ヨリ假令個人ノ資格ナリトスルモ外務省
 側ト何等ノ諒解モナク俄ニ政府ノ意嚮トシテ申入ルル如キハ甚タ面

10.7 S 1.1.1.0 -20

外務省

第 號

田中外務大臣ヨリ在奉天林總領事宛

本省 昭和四年一月七日後發

電信第二號（暗、極秘）

滿蒙鐵道問題ニ關スル件

貴電第七號ニ關シ

次官ヨリ

本件發電前陸軍省軍務局長ヨリ協議アリタルニ依リ貴官ト充分聯絡ヲ取ラシメラレ度キ旨ヲ述ベテ右發電ニ同意シ置キタル次第ニ付御承知ヲ乞フ

10.7

S 1.1.1.0 -20

47

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ田中外務大臣宛

奉天 昭和四年一月七日後發

同 四年一月七日後着

電信第一二號（暗、極秘）

往電第七號ニ關シ

吉林林中佐ハ當地特務機關ノ招電ニ依リ六日來奉シタルニ付前電當方ノ意嚮モアリ又未タ本省ヨリ何等御回電モ無キニ顧ミ旁同中佐ヨリ作相ヘノ申入レハ今暫ク見合サレタキ旨一應申聞ケタルモ四日着奉ノ町野カ江藤ト共ニ張學良、張作相、張景惠及楊宇霆等ト會見シ鐵道問題ニ關シ折衝ノ結果必スシモ好望ノ見込ナキニアラサル挨拶ナルヲ以テ本官ヨリ同中佐ニ依頼シ張作相ニ私人トシテ日本側空氣ノ如何ヲ傳フル事トシタリ但シ之ハ全ク本官ノ依頼ニ依ルモノニシテ決シテ外交系統ノ無爲ヲ許スモノニアラサル事ヲ注意シ置ケリ

10.7

S 1.1.1.0 -20

46

外務省

ル 末ナリ民間反對ノ趣旨ハ吉敦路工事ハ僅々二百元ヲ要スル家屋
 建築ノ爲ニ九百元ヲ要シ居ル事實ニ徴シ其ノ總額モ之ヲ類推シ得ヘ
 ク斯ク不經濟ナル鐵道ヲ開設スルモ終始缺員ヲ生シ直接間接國民ノ
 負擔ヲ増加スヘシトノ結論ヲナシ居ルモノニシテ斯ル事實アル以上
 民間ノ反對ヲ説得シ又ハ聯合議會ヲ強要スルコト容易ニ非ス此ノ邊
 ニ付テハ日本側ニモ充分諒解ヲ請ハサルヲ得スト稱シ鐵道問題ノ解
 決ハ容易ナラサルヲ言外ニ諷シ居タル趣ナリ

10.7

S 1.1.1.0 -20

49

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ田中外務大臣宛

奉天

昭和四年一月九日前着

電信第一六號

今八日藤村カ鄭謙ニ會見セシ機會ニ私見トシテ張學良ハ曩ニ日本側
 ニ對シ北京取極ノ鐵道問題實行ヲ約シ乍ラ之ヲ履行セサルニ於テハ
 其ノ誠意ヲ疑ハレ學良本人ノミナラス滿洲ニ於ケル兩國ノ交情ニ暗
 影ヲ殘ス結果ヲ生シ面白カラサル旨ヲ告ケ何等カ解決ノ瑞緒ヲ得居
 ルヤト質問シタルニ對シ鄭謙ハ張學良モ本問題ニハ相當苦惱シ居ル
 モ聯合省議會員ハ表面ニハ學良ノ意中ヲ汲ミ之ニ反對スル意志ナキ
 モ之ヲ議決トシテ發表スルコトハ民間ノ反對ヲ惧レ之ヲ躊躇シテ其
 ノ議事ノ進行ヲ避ケツツアリ若シ學良カ之ヲ強要セハ議員等ハ南方
 ニ通シテ學良反對ノ氣運ヲ醸成スル惧アリ學良ハ其ノ進退ニ窮シ居

10.7

S 1.1.1.0 -20

48

外務省

第 號
 在奉天林總領事ヨリ田中外務大臣宛
 奉天
 昭和四年一月十一日
 電信第一九號（暗）
 往電第一六號ニ關シ
 江藤カ十日學良ヨリ確カメタル處トシテノ報告其ノ他ニ依レハ昨九
 日夜張學良、常蔭槐、張作相ノ三省代表會合ノ結果愈鐵道（脱？）
 實行スルコトトナリ多分明十一日最後ノ保安會ヲ召集シ其ノ席上ニ
 三省議會長ノ外常任議員二名ツツ合計九名ヲ招キ鐵道（脱？）實行
 方決定セルニ付各省議會ヲ説得スヘキ旨申渡スコトトナリタル趣ナ
 ルカ唯右實行ニ付テ常蔭ヨリ所謂既設鐵道ニ對スル條件變更方提
 出スヘシトノコトナルカ此ノ點ニ付テハ滿鐵側トシテハ交換條件ト
 セス別途ニ考慮スル方針ヲ以テ支那側ニ應酬シ居ル趣ナリ事情右ノ

10.7 S 1.1.1.0 -20

51

外務省

第 號
 田中外務大臣ヨリ在奉天林總領事宛
 本省 昭和四年一月十日發
 電信第三號（暗）
 是迄鐵道問題ニ付テハ專ラ滿鐵ニ於テ交渉ノ衝ニ當リ居タル處今日
 尙解決ノ緒ニ付カズ政府トシテモ之レ以上滿鐵ノミニ委カセ置キ難
 キヤニモ認メラルルニ付テハ今後貴信ニ於テ側面ヨリ滿鐵側ノ交渉
 ヲ援助スル意味ニ於テ之ト聯絡ヲ取り張學良其ノ他支那側適當ノ向
 ニ對シ機會アル毎ニ本件促進方精々盡力アリ度ク殊ニ最近多少有望
 トナリ來リタルヤニ認メラルル趣ニモアリ又易轍問題ニ關連シ帝國
 政府ノ感觸ニ付奉天側カ相當懸念シオルヘキ今日此ノ機ニ乘シテ支
 那側ヲ動カシテ本件解決ヲ遂クル様特ニ御配慮相成様致度シ

10.7 S 1.1.1.0 -20

50

第 號
 在奉天林總領事ヨリ田中外務大臣宛
 奉天
 昭和四年一月十一日後着
 電信第二七號ノ二(暗)
 今回ノ事件ト鐵道問題トノ關係ニ付テハ十一日朝町野、江藤カ學
 良ニ面會ヲ求メシ際學良ハ絶對面會叶ハストテ孫傳芳之ニ代リ面
 會シ學良ノ傳言トテ「昨夜楊、常ヲ銃殺セリ今後ハ日本ト必ス提
 携スヘシ」ト述ヘタルコト及十日午前學良カ江藤ニ面會セル際ハ
 學良ハ態度頗ル落着カス何等カ重大事ニ直面セルカ如キ様子ニテ
 「山本社長ハ實際自分等ニ好意ヲ持チ居ルヤ」ノ意味合ヲ可成リ
 眞劔ニ尋ネタリトノ事及過般易幟問題當時江藤ヲ通シ易幟ハ表面
 ノミニテ實際ハ日本ト協調シ行ク積リナルモ斯ル事ハ總領事ニ正
 式ニ傳ヘ難キヲ以テ山本社長ヲ通シ總理ニ傳ヘラレタシト述ヘタ

10.7 S 1.1.1.0 -20

53

通ニテ未タ遽ニ樂觀ヲ許ササルモ形勢稍好轉シ來レル模様ナリ
 尙九日發南京電通ニ「張學良ヨリ南方政府ニ對シ鐵道問題ニ付請訓
 セリ云々」ノ電報アル處右ハ數日前張學良ヨリ蔣介石ニ對シ私電ヲ
 以テ「鐵道問題ハ實行スルノ已ムヲ得サル事情アリ又實行スル方利
 益ナル故三省聯合ノ責任ニテ愈實行スルコトニ決セルニ付右貴臺(蔣)
 蔣)限リノ内密御含迄ニ通知ス」トノ意味合ヲ打電セル由ニテ右ニ
 關シ學良ヨリ江藤ヘノ談ニ依レハ「南北統一セル以上形式上通知セ
 サルヲ得ス唯右電文ハ單ニ通知ノ形ヲ採リ居ル故別段蔣介石ヨリノ
 返電ヲ豫期シ居ル積リニモアラス蔣モ亦返事ノ仕様無カルヘシ云々
 ト語レル由御參考迄
 吉林ヘ轉電セリ

10.7 S 1.1.1.0 -20

52

三 尙總司令部ニハ目下張作相、張景惠、翟文選、袁金鎧、王樹翰及
 孫傳芳ノ六人詰切リテ善後策ヲ講シ居レリト
 本件真相ニ付テハ尙暫ク探查ノ要アルモ一應右御參考迄
 北平へ轉電セリ

10.7

S 1.1.1.0 -20

ル事等ヨリ推測スル時ハ近來楊一派カ日本側ノ信用ヲ落シ居ルヲ
 恢復セムトテ鐵道問題等ニ付何カト運動シ居ルヲ眺メ寧口之ヲ一
 刀兩斷シテ自己ノ安全ヲ計ラムト決心セル一表現トモ考ヘラレサ
 ルニ非ス然レトモ他ノ一面ニハ之ト全然反對ニ最近鐵道問題ニ關
 シ往電第二一號ノ通學良ヨリ蔣介石ニ電照セル結果或ハ蔣介石ヨ
 リ反對ノ返電アリ（尤モ十日學良ノ江藤ヘノ談ニ依ルモ未タ返電
 ナシトノ事ニテ十一日孫傳芳モ同様語レリト）タル爲學良モ支那
 統一ノ見地ヨリ蔣ニ從フヘキヲ決シ昨今楊、常等カ是非鐵道ヲ實
 行スヘシト楊言シ居ルヲ見テ此ノ點昨夜楊等ト激論ノ結果遂ニ之
 ヲ血祭ニ舉ケ以テ今日斷然鐵道敷設ニ反對セムトスル決意ヲ爲シ
 タルニ非スヤトモ觀測スル向アリ十一日江藤カ孫傳芳ニ別レ間際
 楊ト鐵道問題ト關係アリヤト尋ネタルニ「アリ」ト答ヘ何ノ程度
 ナリヤト尋ネタルニ明答セス但鐵道問題ノミニハ非ス種々ナル材
 料アリト答ヘタル由ナリ

10.7

S 1.1.1.0 -20

外務省

臣)ノ三名ニシテ兵工廠ノ事ハ差當リ 式殺ニ委スル筈ナリ(從テ式殺ノ拘禁ハ事實ニ非スト認ム)尙今回ハ之以上拘禁等ノ範圍ヲ擴大スル事ナカルヘシ何レ本日通電ヲ發スヘシ云々

右張作相ノ所言ハ大體事實ト存セラルル處前記所言中内部ノ命令云々カ果シテ事實トセハ今回ノ事件ト鐵道問題トカ如何ナル程度ニ因果關係アリヤハ我方トシテ注意スヘキ點ナリ

北平ニ轉電セリ

10.7

S 1.1.1.0 -20

57

REEL No. A-0009

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ田中外務大臣宛

奉天

昭和四年一月十一日後着

電信第二九號(暗)

往電第二二號ニ關シ

十一日張作相カ深澤ニ語レル要領左ノ通

楊宇霆、常蔭槐ヲ銃殺セルハ事實ナリ楊ハ故張大元帥ノ恩顧ヲ受ケ居ルニ拘ラス獨リ威服ヲ逞フシテ自己ノ勢力ヲ張リ往々ニシテ學良ノ命ヲ聞カス兵工廠ヲ切廻シテ既ニ之ニ二億七千萬ノ金ヲ費消シ而モ自ラ數千萬元ノ私腹ヲ肥シ居ル等罪狀鮮カラス又外交問題ニ就テモ表面學良ニ對シ好言ヲ呈シツツ裏面彼ヲ陷レント企テ以テ學良ヲ倒シテ自ラ獨リ善キ兒ニ爲ラントスル謀反的態度私ニアル爲内部ヨリノ命令(國民政府側ノ意ナリト云ヘリ)モアリ遂ニ此ノ結果ヲ生スルニ至レリ尙拘禁中ノ者ハ翁之麟、張宣及京奉局長胡慶(常蔭槐ノ腹

10.7

S 1.1.1.0 -20

56

タルモノノ如ク路透其ノ他外國新聞記者ヨリ右滿洲交渉ニ關シ係員ニ實否問合アリタルニ付否認シ置キタル趣ナリ御參考迄
奉天、上海、南京へ轉電セリ

10.7

S 1.1.1.0 -20

第 號

在北平堀臨時代理公使ヨリ田中外務大臣宛

北平 昭和四年一月十一日後發
同 四年一月十一日後着

電信第三五號（暗）

十日當地新晨報ハ九日南京發特電トシテ林總領事ハ田中内閣ノ密令ヲ受ケ張學良ニ會見シ強硬ニ吉敦線延長工事至急允許方ヲ迫リ場合ニ依リテハ兵力ノ使用ヲモ辭セサル態度ヲ示セルカ張學良ハ之ヲ峻拒シ八日南京蔣首席ニ對シ委細電報シ處置方ヲ請訓シ九日中央政治會議ニ於テ對策研究ノ結果北平政府締結一切ノ非正式借款契約ノ承認ハ考慮スルノ要アリ吉會線借款契約モ亦我國法ノ規定ニ從フヘキモノニテ現在東三省ハ中央ニ隸屬シ外交事件ハ中央ニ依リ辨理スヘキモノナルカ故ニ田中總理カ俄ニ奉天總領事ヲシテ東三省當局ニ要求ヲ提出スルハ實ニ違權ナリト特書報道セルカ少カラス注意ヲ引キ

10.7

S 1.1.1.0 -20

肥原等ニ對スル誤解多キコトヲ長々ト辯明シタル由ニテ其ノ他孫傳芳カ町野、清野等ニ對シ殊更日支親善ヲ口ニシ乍ラ町野、江藤ノ學良ヘノ面會ヲ拒絕セル如キ諸般ノ事情ヨリ察スル時ハ今後彼等ノ我方ニ對スル態度ハ支那人一流ノ遣口ヲ以テ我軍部其ノ他ヲ巧ニ操ル策ニ出ツルニ非サヤトモ存セラレ尤モ本十二日中江藤、町野等學良ニ面會ノ筈故其ノ結果ヲ見テ本官更ニ日ヲ改メ學良ヲ往訪會談スル積リナリ

10.7
S 1.1.1.0 -20

第 號

在奉天林總領事ヨリ田中外務大臣宛

奉天

昭和四年一月十二日後着

電信第三七號(暗)

楊常統殺事件ニ關シ今後學良、作相等カ我方ニ對シ如何ナル態度ニ出テ來ルヤハ最注意スヘキ點ニテ目下各歸關トモ聯絡ヲ保チ折角注意中ナルカ林顧問カ十二日朝張作相ニ面會ノ上問題ニ對スル日本側ノ態度ヲ顧問タル立場ヨリ嚴重注意シタル處作相ハ昨十一日深澤ニ語レル所ト異ナリ今次事件ハ鐵道問題ニ關係ナキモ同問題ハ何レ内閣ノ政治組織等成立セル上協議決定スヘシトノ意味合ヲ述ヘタル趣ナルカ一方十一日王家楨ハ本官ニ對シ個人トシテ告クト言ヒ乍ラ今日泰少將及土肥大佐ヲ訪問シテ學良ノ命ニ依リ告クルモノナリト述ヘ殊ニ土肥原ニ對シテハ從前學良ノ土肥原ニ對シテハ從前學良ノ土

10.7
S 1.1.1.0 -20

外務省

ヨリ然ラハ何時實行スルヤト反問セルニ對シテハ時期ハ明言シ難シト逃ケタルニ依リ町野ハ此ノ事ハ至急ヲ要スヘキニ付良ク總領事ニモ貴方ヨリ按配ヲ計リ進メラレ度シト述ヘ置ケリト

10.7 S 1.1.1.0 -20

外務省

第 號
在奉天林總領事ヨリ田中外務大臣宛
奉天
昭和四年一月十二日後着
電信第三九號 (暗)
往電第二七號ニ關シ
十二日正午江藤、町野、學良ニ面會セル處學良ハ盛ニ楊ノ罪狀ヲ述ヘタル上南方ヨリモ楊ノ罪狀ニ付電報アリタル旨ヲ語レル由ナリ其ノ節町野ヨリ鐵道問題ニ關シ學良ノ決心ヲ尋ネタルニ學良ハ實行スル決心アリ實ハ過般蔣介石ニ對シ今日外交ノ事ハ當然中央政府ニ經伺スヘキ事筋合ザルモ鐵道問題ハ大元帥以來ノ特殊事情モ有ルヲ以テ當方限りニテ實行致度シト電報セル處蔣ヨリ事情貴電ノ通ナラハ已ムヲ得サルニ付實行セラレ差支無キモ唯民衆ノ反動ニ對シ注意スヘキ旨返電アリタリトテ來電原文ヲ江藤町野ニ示シタル由ニテ町野

10.7 S 1.1.1.0 -20

外務省

ヲ以テ此ノ難局ニ善處スル様充分激勵シ置カレ度シ尙貴官トシテハ
 此機會ニ於テ更ニ吉會線問題ノ解決ヲ迫ルコト緊要ト考ヘラルルニ
 付一方ニ於テ學良ニ支援ヲ約スルト同時ニ他方ニ於テハ適宜壓迫ヲ
 モ加ヘ機宜ノ措置ヲ謬ラレサル様致度
 上海ニ轉電セリ參考トジテ北京ニ轉電アリ度シ

10.7 S 1.1.1.0 -20

外務省

第 號

田中外務大臣ヨリ在奉天林總領事宛

本省 昭和四年一月十三日發

楊常統殺事件ニ關スル件

電信第七號(暗)

楊字選常蔭槐銃殺事件ノ眞因及影響等ハ未タ必スシモ明瞭ナラスト
 雖兎ニ角本事件カ東三省ノ政情ニ激動ヲ生ゼシメ居ルハ疑ナク而シ
 テ斯カル際ニ乘ジ南方勢力ガ東三省ニ壓迫ヲ加ヘ又ハ張學良ヨリ南
 方ニ接近セムト努メ遂ニハ南方勢力ヲ一層東三省ニ侵入セシメテ益
 ヲ人心ヲ動搖セシメ引テハ治安秩序ヲ脅カスカ如キコトナシトモ限
 ラサルニ付テハ貴官ハ成ルベク速カニ張學良ニ面會シ帝國政府カ張
 作霖死亡直後貴官ヲ通ジテ學良ニ表明セル同情的ノ態度及方針ハ今
 日ト雖毫モ變更ナキ旨ヲ告ゲ學良ニ於テモ右篤ト諒解ノ上固キ決心

10.7 S 1.1.1.0 -20

テ公義ヲ取り東三省ノ禍根ヲ除去セルモ他面國家及地方ニ對シテハ勿論死人ニ對シテモ公正ナル態度ヲ取り公人タル義務ヲ果ス重責ヲ痛感シ日支ノ東三省ニ於ケル關係ニ對シテハ特ニ善處シ日本政府ノ自分ニ對スル好意ニモ背カサルヲ期シツツアリ從テ鐵道問題ハ聯省議會ニ對シテハ其ノ疏通ヲ計ルト共ニ國民政府ニ對シテハ滿鐵トノ契約實行ニ關シ承認方電請シツツアリト述ヘタルヲ以テ本官ハ南京ヨリハ既ニ實行差支ナシトノ返電アリタルニアラスヤト反問セルニ學良ハ前ニ江藤ニ話シタル電文（往電第二一號參照）ハ其ノ一端ニ過キスシテ全文ノ意味ハ極メテ曖昧ナルモノナリ依テ更ニ電請セルモノナリ且又吉林方面ヨリハ南京迄モ代表ヲ派シ反對運動ヲ行ヒツツアリ對日反感ノ強キ今日（續ク）

10.7

S 1.1.1.0 -20

67

第 號
在奉天林總領事ヨリ田中外務大臣宛
奉天 昭和四年一月十四日後發
同 四年一月十五日前着
電信第四八號ノ一（暗）
楊、常處罰ノ真相モ諸般ノ情報ニ依リ略明瞭シタルヲ以テ十四日張學良ニ面會スル手筈ノ處貴電第七號御訓示ノ趣旨モアリ旁今日午前十一時張學良ニ面會シ楊、常處分ノ結果東三省ノ禍根ヲ一掃シ總司令ノ地位モ益々鞏固トナリタルニ付テハ豫テ本官ニ對シ約束セル鐵道問題ノ解決モ自然容易トナリタルモノト思料シ双方ノ爲竊ニ喜ヒ居タル處恰モ日本政府ヨリモ同様ノ見解ヲ以テ此ノ際鐵道問題ノ解決ヲ促進セララル様申出テヨトノ嚴重ナル訓令ニ接シタル旨ヲ前提シ強ク其ノ決心ヲ促スト共ニ學良ノ現在執リ居ル手段方法ヲ質問シタルニ別電第四九號ノ通揚、常處分ノ經緯ヲ説明シタル後私情ヲ棄

10.7

S 1.1.1.0 -20

66

外務省

ルヘカラス調査復命スヘキ旨當地延吉道尹公署ニ訓令シ來レリト
右御參考迄報告ス
本信寫送付先

在支公使
奉天、間島、吉林各總領事

10.7

S 1.1.1.0 -20

外務省

第 號

在局子街副領事ヨリ田中外務大臣宛

局子街 昭和四年一月十四日附

同 年同月廿三日着

公信機密第一四號

滿鐵會社ノ敦化、延吉、海林地方測地行動阻止方
訓令ニ關スル件

支那官憲ハ曩ニ吉會線敷設反對運動發生以來敦化局子街間旅行本邦
人ニ對シ特殊ノ注意ヲ拂ヒ兩地間自働車運行開始後モ變裝日人ノ旅
行ヲ嚴重監視スヘント發訓セル處今回更ニ國民政府ノ電報ニ接セル
奉天總司令部ハ吉林保安司令部ヲ通シ滿鐵會社ハ員ヲ派シ敦化ヨリ
延吉ニ來リ海林等地方ニ沿ヒ路線ヲ勸測シ其意吉敦線ヲ延長シ吉會
線ヲ完成セントスルニ在ル趣ナルカ右若シ事實トセハ國防主權ニ關
係アリ外交部ヲシテ抗議セシムルモ地方ニ於テモ法ヲ設ケ阻止セサ

10.7

S 1.1.1.0 -20

外務省

第 號
 在局子街田中副領事ヨリ田中外務大臣宛
 昭和四年一月十四日附
 同 年一月廿三日着

公信第一五號
 日本ノ鐵道敷設權要求ニ對スル國民政府方針ニ關スル件
 吉會鐵道敷設反對陳情ノ爲メ南京政府ヲ訪問セル當地延邊農工商學
 聯合會代表關俊彦等ヨリ本月九日付聯合會宛電報セル八日付外交部
 指令文左ノ如シ(支那紙民聲報所載)
 對外交渉ハ中央ニ於テ既ニ一貫セル方針ヲ有ス現在統一告成シ外
 交ニ關シテハ地方事件ヲ除ク外何省ヲ問ハス斷シテ局部的交渉成
 立ノ理ナシ日本ノ東三省當局ニ對スル鐵道敷設權要求ニ關シテモ
 外交部ハ自ラ當ニ事實ヲ詳査シ博ク輿論ヲ採リ府院ニ繼承シテ妥
 籌辨理スヘシ

10.7

S 1.1.1.0 -20

71

外務省

第 號
 在局子街田中副領事ヨリ田中外務大宛
 局子街 昭和四年一月十九日附
 昭 和 四 年 一 月 廿 六 日 着

公信機密第二七號
 滿鐵ノ鐵道豫定線測量阻止方訓令ニ關スル件
 滿鐵ノ敦化、延吉、海林地方鐵道豫定線測量阻止方訓令ニ關シ本月
 十四日付機密第一四號拙信ヲ以テ報告ニ及ヒタル處今回右ニ關シ延
 吉道尹公署ヨリ警察廳長ヲ經テ各地分署ニ密訓シタル趣八道溝分署
 長ヨリ報告アリタリ
 右御參考迄報告ス
 本信寫送付先
 奉天、間島、吉林各總領事

10.7

S 1.1.1.0 -20

70

外務省

何 號

在奉天林總領事ヨリ田中外務大臣宛

奉天

昭和四年一月十五日前着

電信第四八號ノ二

此等ヲ説得シテ輿論ノ反對ナキ様取計ハサル可カラス當方ヨリノ電
報ニハ反對運動者ノ口實トスル國防關係ハ貴國ノ爲ニモ寧ロ鐵道ノ
開通ヲ利益トスヘシ等反對論ニ駁撃ヲ加ヘ國民政府ノ反省ヲ促シ居
ル處國民政府ヨリハ單ニ時日遷延方ヲ申越シ當方ヨリハ此ノ上遷延
シ得スト之ニ關シ其ノ諒解ヲ求メツツアリト辯疏セルニ依リ本官ハ
條約其ノ他ノ取極ハ對外的ニハ片面的ニ取消得サルト共ニ對内的ニ
ハ地方官民之ヲ遵奉スル責務アルモノニシテ中央政府ノ意思ヲ經伺
シ或ハ其ノ諒解ヲ得ル如キハ殆ト了解ニ苦ムモノナリト指摘シ我方
トシテハ東三省ニ關スル限り其ノ責任者タル學良ニ對シ條約其ノ他

10.7
S 1.1.1.0 -20

外務省

右御參考迄報告ス

本信寫送付先 在支公使 奉天、間島、吉林各總領事

10.7
S 1.1.1.0 -20

外務省

第 號
 在奉天林總領事ヨリ田中外務大臣宛
 奉天
 昭和四年一月十五日後着
 電信第五〇號（暗）
 往電第四八號ノ一末段（往電第二一號參照）トアルヲ往電第三九號
 參照）ト御訂正アリタシ
 北平、上海へ暗送セリ

10.7

S 1.1.1.0 -20

75

外務省

ノ取極實行ヲ督促スル次第ナルカ若シ該契約ヲ實行セサルニ於テハ
 國際契約蹂躪ノ結果トナリ東三省ニ於ケル日支關係ヲ惡化スル虞ア
 リテ其ノ責任ハ貴司令ニアリトテ多少威喝の言辭ヲ用ヒタルモ尙承
 諾セサルヲ以テ更ニ溫言ヲ以テ之皆貴司令ノ地位ヲ顧慮スル好意ニ
 出テタル忠言ナルヲ以テ深ク再考セラレタシト述ヘタルニ貴意ハ了
 承セリト答ヘタルニ依リ不取敢今日ノ會見ヲ打切リテ歸レルカ一兩
 日中ニ張作相ヲ往訪説得ヲ加フル積リナリ
 北平、上海へ轉電シ吉林へ暗送セリ

10.7

S 1.1.1.0 -20

74

外務省

サリント思ハルルモ既ニ出來タル以上致方無シ(續ク)

10.7

S 1.1.1.0 -20

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ田中外務大臣宛

奉天

昭和四年一月十六日前着

電信第五五號ノ一(暗)

往電第四八號末段ニ關シ

今十五日張作相ニ會見シ懸案ノ鐵道問題ハ夙ニ關係筋ニテ其ノ速成ヲ期シ居ル處支那側内部ノ故障ニ依リ未タニ解決ヲ見サルハ頗ル遺憾ニ堪エス最近楊、常ノ處分ニ依リ東三省ノ禍根一掃サレ内部的牽制ヲ免レタルハ該問題ノ解決ニ好影響アリト認メ既ニ張學良ニ對シ其ノ促進ヲ嚴談シ置キタル處該鐵道ニ直接最關係アル吉林ノ軍民兩長官ニシテ東三省第一ノ資望實力ノ所有者タル貴官カ大局ヨリ打算シ其ノ至急解決ニ盡力セラルル事ヲ切望スル旨申入レタル處作相ハ楊、常事件ハ自分カ長ク奉天ニ駐在シタリシナラハ斯ル始末ニ至ラ

10.7

S 1.1.1.0 -20

76

ルニ作相ハ斯カル紛争ヲ來サシメサル様最善ノ力ヲ竭スヘキヲ以テ
決シテ御懸念ニ及ハスト頗ル樂觀シ居タリ

10.7
S 1.1.1.0 -20

第 號

在奉天林總領事ヨリ田中外務大臣宛

奉天

昭和四年一月十六日前着

電信第五五號ノ(二)(暗)

鐵道問題ハ中央政府ノ取極ニ對シテ地方責任者ハ之カ實行ヲ爲スヘ
キコト異論ナキモ地元地方民ノ反對熾烈ニシテ既ニ南京政府ニ請願
シ得ル事情アリ國民政府ノ意見ヲ徵スル必要ヲ生シタルモノニシテ
學良ヨリ兩三日前鐵道問題解決ノ已ムヲ得サル事情ヲ詳細國民政府
ニ具申シ昨十四日モ最初ノ政務委員會ニ於テ本問題ヲ討議シタル次
第ニテ自分ハ該電報ノ返事ヲ待チ鐵道問題ヲ處理スヘク當地ニ滞在
シ居ルモノナリト稱シ氣輕ニ之ヲ取扱フ口吻アリタルニ依リ本官ハ
國民政府カ其ノ實行ニ故障ヲ申込ミ來レハ如何ニスルヤト反問シ斯
カル場合ニ我方トシテハ斷乎トシテ所信ヲ執ルヘント警告ヲ與ヘタ

10.7
S 1.1.1.0 -20

東三省人ノミニテ之ヲ組織スルヲ以テ南方勢力ノ侵入カ大局ヲ動か
 ス如キ心配ハ全然無用ナリト稱シ居タリ
 右何等御參考迄

10.7

S 1.1.1.0 -20

第 號

在奉天林總領事ヨリ田中外務大臣宛

奉天

昭和四年一月十五日後着

電信第五六號 (暗)

往電第五五號張作相トノ會見ニ於テ本官ハ東三省ニ於ケル國民黨勢
 力ノ浸潤ニ關シ東三省ト直接間接ニ利害ノ關係密接ナル日本及日本
 人カ深甚ナル注意ヲ拂ヒ居ルコトヲ告ケ之ニ對スル作相ノ意見ヲ徵
 シタル處作相ハ國旗問題ノ如キ形式ニ囚ハレ支那ノ統一阻礙ノ護リ
 ヲ受クルヘ面白カラサルモ軍民兩政ノ實質的變化及國家既定ノ對外
 取極ヲ破壞スル如キ南方派ノ干涉ハ之ヲ防止スル方針ヲ採リ今回ノ
 東北政務委員ニハ南方系中ノ穩健家タル方本仁及張學良ノ知合ナル
 何成浴ノ二名ノミニ之ニ參加スルコトヲ承諾シ何成浴ハ病氣ノ爲加ハ
 ラス結局南方ヨリハ一名參加ヲ見タル始末ナリ又地方黨部ノ如キモ

10.7

S 1.1.1.0 -20

外務省

度等ヨリ思ヒ合セテ到底楊ト兩立シ難キヲ見拔キ居タル矢先易職問題ニ絡ム楊ノ術策アリ（往電第二七號）更ニ去ル六日楊ハ學良ニ對シ鐵道問題實行ニ依ル民衆ノ反對ハ聽テ取鎮メ得ヘキモ不實行ノ爲ニ生スル日本側ノ反對ハ容易ニ回復スヘカラストテ可成リ手嚴シク實行ヲ迫リタル事アリ（續ク）

10.7

S 1.1.1.0 -20

83

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ田中外務大臣宛

奉天

昭和四年一月十六日前着

電信第五七號ノ一（暗）

楊、常處斷事件ニ關シ其ノ後各方面ノ情報ヲ綜合スルニ其ノ原因カ畢竟往電第二七號ノ通張學良、張作相ト楊宇霆トノ勢力争ニ歸スヘキハ疑フ餘地ナキ處之カ決行ノ最近ノ動機ト認ムヘキハ矢張り鐵道問題ニ關聯スルモノナルヘシト想像セララル節アリ即チ楊ハ過半來ノ日本側ニ於ケル反楊空氣カ最近幾分緩和ノ狀アルニ乘シ鐵道問題ヲ利用シテ一面自己ノ日本側ニ對スル聲望ヲ高ムルト共ニ他面上ノ密行責任者トシテ學良及作相ヲ押立テ所謂賣國奴ノ汚名ヲ彼ニ被セ以テ他ノ地位ヲ失墜セシメムトノ魂膽ノ下ニ何かト策動セル爲學良モ最近楊ノ自分（學良）ニ對スル諸般ノ遣口殊ニ學良ヲ侮蔑セル態

10.7

S 1.1.1.0 -20

82

外務省

モノナルヘシ弱テ今次事件ハ張作相、張景惠學良三人ノ合作ニ依ル
 モノニテ他ノ要人連ハ事前ニ何等相談ヲ受ケ居ラス孫傳芳等ノ策動
 モ多少ハ關係ナキニ非サルヘキモ蓋シ傍系ノ程度ノモノニ過キサ
 ヘシ
 尙學良ハ事件翌日ハ流石ニ困憊ノ狀有リタル趣ナルモ十二日ニハ反
 動的ニ意氣軒昂タルモノアリ十三日ニハ平常ニ復シタル模様ナリ
 以上ハ今日迄ニ諸般ノ事情ヨリ考慮シ略間違無キ觀測ト存シ居ルニ
 依リ御參考迄
 北平、上海ニ轉電セリ

10.7

S. 1.1.1.0 -20

85

外務省

第五七號ノ二(暗)
 爲ニ學良モ一層右信念ヲ強メタル折柄一方ニハ本月六、七、八日頃
 楊宇霆兩親ノ盛大ナル誕生宴アリテ楊ノ勢力ヲ見セ付ケラルル等ノ
 コトアリテ遂ニ最後ノ決心ヲスルニ至レルモノナルヘキカ唯右決心
 ヲ固ムルニ至レルハ張作相、張景惠ノ兩者與ツテ力有リト存ス作相
 ノ人物ハ何レカト言ヘハ消極的ナルモ今日迄吉林ニ半平乎タル勢力ヲ
 有スルハ彼ニ惡事ヲナササル美點アルト消極的ナル一面場合ニ依テ
 最後ノ斷案ヲ下ス意力アルニ依ルモノナルヘク彼カ楊ニ對スル多年
 ノ反感ハ學良對楊ノ最近ノ關係ヲ見故大元帥ニ對スル恩ニモ鑑ミ旁
 々平素常蔭槐ニ反感ヲ抱ケル張景惠ト謀リ茲ニ學良ヲ説クニ至レル

10.7

S. 1.1.1.0 -20

84

第 號

在奉天林總領事ヨリ田中外務大臣宛

奉天

昭和四年一月十六日前着

外務省

第 號
在南京岡本領事ヨリ田中外務大臣宛
南京
昭和四年一月十七日後着

電信第三七號（略）

昨十六日ノ中央政治會議ニ於テ今ヤ統一達成シタルニ付各省ノ對外交渉總テ中央ニ移シテ辦理スヘク外交部ヨリ中外ニ對シ何レノ國家ヲ問ハス凡ソ各省長官ト協定ヲ締結セルモノハ中央ニ於テ其ノ效力ノ發生ヲ承認スルコト能ハスト通告スヘキ旨決議セララル

北京ヨリ奉天へ、上海ヨリ廣東へ轉電アリタシ
公使、上海、天津、青島、濟南、漢口、福州へ轉電セリ

10.7. S 1.1.1.0 -20

87

外務省

第 號
奉天機關ヨリ參謀次長宛
昭和四年一月十五日後發
同 四年一月十六日前着

電信奉電第二二號（極秘）

林中佐カ張作相ヨリ聞キタル所ニ依レハ昨十四日政務委員會ノ組織成リ重要事項ハ之ニ於テ議スルコトナレリト從テ鐵道問題モ之ニ移サル可ク保安委員會ハ開カサルコトトス、外交ノ事モ當然將來ハ南京政府ノ指示ヲ仰クヘキモ東三省ト日本トハ特殊ノ關係ニ在ルヲ以テ充分慎重ニ取扱ハサルヘカラスト

關東、北京、天津、朝鮮、哈市濟

10.7. S 1.1.1.0 -20

86

是以上滿鐵ノミニ委セ置キ難キヤニ認メタルニ付最近在奉天林總領事ニ對シ側面ヨリ滿鐵側交渉ヲ援助スル意味ニテ之ト連絡ヲ取リ機會アル毎ニ張學良其他支那側適當ノ向ニ對シ本件促進方盡力スヘキ旨訓令セルカ同總領事カ一月十四日及十五日各張學良及張作相ト會談セル模様往電第二一號及第二六號ノ通ナリ
英ニ傳電シ英ヲシテ在歐各大使ニ暗送セシメラレタシ

10.7 S 1.1.1.0 -20

第 號

田中外務大臣ヨリ在米出淵大使宛

本省 昭和四年一月十八日后發

電信第二五號（暗）

滿蒙鐵道交渉ニ關スル件

滿蒙ニ於ケル鐵道敷設ニ關シテハ從來滿鐵ニ於テ政府ノ方針ヲ體シテ張作霖ニ交渉ヲ重ネ客年五月若干鐵道線ノ敷設ニ付北方政府當局ト滿鐵トノ間ニ請負契約締結ヲ了シタルカ引續キ北方政府ノ沒落張ノ死没等政情ノ急變アリ其後滿鐵ヨリ東三省當局ニ對シ右等諸線中主トシテ吉敦鐵道延長績吉會線ノ建設實施ニ付協議ヲ開始セルモ東三省當局ニ於テ内部ノ勢力關係吉林省内其他ニ發生セル反對運動等ヲ顧慮セルモノト見エ急速同意ノ運ヒニ至ラス今尙工事未着手ノ狀況ニ在リ滿鐵ニ於テハ目下引續キ促進ニ努力中ナルカ政府トシテモ

10.7 S 1.1.1.0 -20

外務省

リ此問題解決ニ關シ意見ヲ南京政府ニ提供セルニ政府モ之ヲ諒トシ
 圓滑ニ展開セントシツツアリ
 又對内的ニハ聯省議會會員ニハ之ヲ説明シ議員ヨリ人民ニハ諒解
 セシメ民意ノ反對ヲ防ク筈ナリト之ニ對シ齋藤ハ目下ノ空氣ニ於テ
 聯省議會會員ヲ納得セシムルコトハ困難ナラスヤト問ヒタルニ作相
 ハ然ラス若シ本問題ヲ實施セサルコトトスレハ日本ハ安奉線敷設ノ
 要領ニ依リ強行的ニ敷設ス可ク其際ハ予ハ軍警ヲ率ヒテ之ト争ハサ
 ルヘカラス而シテ日本ニ敗レタル時ハ其責任ハ聯省議會ニテ負フヤ
 ト尋ヌルニ恐ラク議員等ハ一言モ無カルヘシ故ニ此ノ方ハ左マテ困
 難ナラス要スルニ鐵道問題ハ實行スヘキモ時日ハ尙何トモ謂ヒ難シ
 ト述ヘタリ
 當方ノ觀察ニ依レハ本案ハ實施ノ意志ハアルモ右様ノ事ニカコツ
 ケテ日時ヲ遷延シ且ツ日本ニ於ケル議會進行ノ情況ヲ觀察シ田中内
 閣ノ強弱ノ度ニ調和セントスルモノニアラサルヤト思ハルル點多シ

10.7 S 1.1.1.0 -20

外務省

第 號
 奉天機關ヨリ參謀次長宛
 昭和四年一月十七日後發
 同 年一月十八日前着
 電信奉第二四號（其ニ極秘）
 鐵道問題ニ關シ林中佐、齋藤理事ハ本十七日張作相ニ面談セリ
 作相曰ク鐵道問題ニ關シ南京政府ヨリ發シタル回電ハ該政府責任
 ヲ負ヒ難キ要旨ノモノナリシヲ以テ更ニ南京政府ニ多少ニテモ多ク
 責任ヲ持タシムル如ク電報セリ斯様ニシテ尙二、三回ハ電報ノ往復
 ヲ要スヘシト
 之ニ對シ齋藤ハ南京政府ハ恐ラク同意ヲ表スルコト無カルヘグ其際
 ハ却ツテ本問題ノ解決ハ困難トナラサルヤト問ヒタルニ對シ南京政
 府モ東三省ト日本トノ關係ニ鑑ミ全ク當方ヨリノ電報ノ趣旨ヲ無視
 スルカ如キコトナカルヘク今回ノ關稅問題ニ於テモ東三省ノ立場ヨ

10.7 S 1.1.1.0 -20

第十八日學良江藤ニ對シ左ノ通り語レリ。
 南京政府ヨリ第二回目ノ回電アリ要旨ハ、一總司令ノ日本ニ對スル
 地位ト苦心トハ十分諒トスルヲ以テ貴方ノ意見通り取圖ラハレ差支
 ナシ、但シ南方對日關係ノ現狀ニ鑑ミ關係ノヨクナル迄遷延策ヲ取
 ラレタシト云フニ在リ
 此上南方ト電報ヲ往復ノ要ナシ只實行後南方ガダズダズ云ハザル様
 諒解ヲトルタメ至急コジャクグヲ南京ニ聞キ合セ其ノ結果ヲ見ル積
 リナリ、又聯省議會ハ議ニ上スモ到底贊成決議ヲナス見込ナキヲ以
 テ彼等ハ贊成ハセズトモ反對セザル様十分諒解ヲトグベク其ノ上ニ

第 號

齋藤理事ヨリ社長宛

昭和四年一月十八日前發
同 年一月十八日前着

外 務 省

10.7

S 1.1.1.0 -20

93

關東、北京、天津、朝鮮、哈市スミ

外 務 省

10.7

S 1.1.1.0 -20

92